

事業番号	253
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《雨水対策事業》						担当部	都市建設部							
	会計区分	一般会計			事業類型	施設整備系		担当課	河川課							
	事業期間	平成12年度以前			～		平成30年度以降		担当係	河川係						
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		26 河川・水路		2 雨水貯留施設を整備する									
		副目的														
	予算区分	款	8	項	3	目	3	大	4	中						
	根拠法令・個別計画	特定都市河川浸水被害対策法、新川流域水害対策計画														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	79 %		委託	21 %		助成	0 %							
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	河川改修には長い年月が必要であるため、総合治水の視点から、雨水を下流に排除するだけでなく、その場に貯めることで流出の抑制をし、浸水被害を軽減する。														
	内容 (手段)	<p>公共施設(公園、学校等)でその地区に適合した貯留方法・規模により貯留浸透施設を設置する。</p> <p>また、ため池や水田など農業関係施設を利用した雨水貯留も実施し、平成25年度末までに247,000㎡の雨水貯留量の確保を目標とする。</p> <p>雨水貯留施設のみで専用の土地を確保することは非常に困難であるため、公共用地及び民間の水田を目的外で使用できるように、他課との調整や土地所有者への説明、協定書の締結等を実施する。</p> <p>○平成23年度実施内容</p> <p>【委託業務内容】</p> <p>上新町地区及び応時中学校雨水貯留施設設計業務 2件(委託料:7,245千円)</p> <p>地下貯留施設 1ヶ所(上新町地区 570m3)、表面貯留 1ヶ所(応時中 518m3)</p> <p>【工事請負内容】</p> <p>新庁舎雨水貯留施設工事(平成24年5月末完了) 1件(工事費:26,300千円)</p> <p>地下貯留施設 2ヶ所(846+138=984m3)</p> <p>【財源内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>一般財源</td> <td>12,740千円</td> </tr> <tr> <td>社会資本整備総合交付金</td> <td>8,000千円</td> </tr> <tr> <td>流域貯留浸透施設整備事業債</td> <td>14,400千円</td> </tr> </table> <p>○平成24年度実施内容</p> <p>平成24年度は、新庁舎雨水貯留施設(984㎡)の完成及び応時中学校の校庭での表面貯留(518㎡)の整備を行なう。</p>										一般財源	12,740千円	社会資本整備総合交付金	8,000千円	流域貯留浸透施設整備事業債
一般財源	12,740千円															
社会資本整備総合交付金	8,000千円															
流域貯留浸透施設整備事業債	14,400千円															
受益者負担	受益者負担なし															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	19,621	32,623	33,545	74,000	
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,595	1,595	1,595	1,595
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	21,216	34,218	35,140	75,595	
	対前年比	%		161.2	102.6	215.1		
財源	一般財源	千円	16,216	34,218	12,740	29,395		
	国・県支出金	千円	5,000	0	8,000	16,500		
	その他財源	千円	0	0	14,400	29,700		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	施設設置件数	件	目標		1	1	0
実績				1	1	0	
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	雨水貯留量	m ³	目標	800	250	0	1,502
実績			733	259	0		
公共施設の総雨水貯留量	m ³	目標	243,800	244,600	245,300	246,200	
		実績	243,988	244,721	244,721		

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>平成23年度から、小牧市役所新庁舎建設にあわせて地下に984m³の雨水貯留施設の整備を進めており、完成後は当該地区の浸水被害軽減に寄与できる。 また、公共施設の総雨水貯留量が平成24年6月には245,705m³となる見込みである。</p>
	事業実施における課題等	<p>浸水被害が雨水貯留施設設置によりどのように軽減されたか、判りやすく検証する必要がある。 また、雨水貯留施設が必要な箇所はまだ相当数必要であり、公園、学校等の公共用地以外での貯留施設の整備の検討が必要である。</p>
	事業を縮小・廃止したときの影響	<p>急激な都市化に伴い発生する大雨対策として、改修までに長い年月が必要な河川水路整備に代り必要な箇所に設置できる当該施設は、他に類似する事業がないことから、廃止すれば一部治水行政を果たせなくなると考える。</p>
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	雨水貯留施設が必要な箇所はまだ相当数あり、継続的に事業を実施する必要があり、現状維持と判断した。
	改善案等	市街地においては公園、学校等の公共用地の外、道路用地内の側溝や地下等も利用して雨水貯留浸透施設の設置を計画し降雨によるピーク雨量を貯留して浸水被害の軽減を目指す。 また、水田については貯留はもちろん、保全についても効果のある水田貯留施設の整備促進を目指す。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。